吹田市立博物館第2次中長期計画

1 資料の収集と保管

① 平成22年～26年（5年間）の成果と課題

資料の収集については、地域の特性を示す系統的なコレクションを形成するため、重点的収集対象を窯業資料、万国博覧会、ニュータウン、大坂画壇、昭和30年代の地域資料と位置づけ、資料収集を実施した。また、古写真の収集や現代史に関する特別展においては市民からの収集も積極的に実施した。

日本を代表する宗教芸術家である西村公朝氏の事績を示す資料の受入は、収蔵庫の狭隘を解消するべく計画した収蔵庫の増築が進捗せず、進展していない。

収集資料のくん蒸処理、台帳登録、整理作業および図書資料の整理は日常業務として継続的になされたが、データのデジタル化については、一部の進捗にとどまっている。またこれらのデジタル情報を公開する根幹的なシステム構築は進展していない。

② 中期計画（平成27年～31年）

- ・重点収集資料を中心に資料収集を進める。
- ・収集方針を確定させる
- ・収蔵庫を増築し、土器や瓦類を一般収蔵庫から移動させ、西村公朝資料を収納する。
- ・文化財の虫害対策について環境法などのくん蒸の最新情報を研究し、将来計画に備える。
- ・資料のデジタル化を進める。
- ・資料のデータベースの整備を図書館データベースとの連携を視野に検討する。

③ 長期計画（平成32年～36年）

- 収集方針にもとづき継続的な資料の収集を実施する。
- 古写真、フィルムの収集を実施する。
- 文化財保護による収集体制と、本来的な博物館資料群の構築に向けた収集体制の分割を構想する。
- 資料情報をデータベースにおいて完全管理する。
- 大規模展示リニューアルにあわせた資料修復をおこなう。

2 調査研究

① 平成22年～26年（5年間）の成果と課題

特別展、企画展に関する調査研究は展示や研究成果の公表により一定の成果をみたが、展示関連以外の調査研究は低調である。今後、幅広い地域資料調査とその研究成果の公表が必要である。

平成22年に登録博物館申請を行い、文化庁から補助金の獲得が可能となり、北大阪ミュージアム・ネットワークによるシンポジウムの開催など他機関との共同事業が一部進展した。

② 中期計画（平成27年～31年）

- ・館の目標に基づく調査研究事業を展開する。
- ・常設展示を更新させるための館蔵資料の調査を進める。
- ・特別展・企画展に関する調査研究を実施する。
- ・調査研究成果を展示や講演会、論文・レポートなどに記録していく。
- ・北大阪ミュージアム・ネットワークによる共同調査を実施する。
- ・学芸研究会を実施する。

③長期計画（平成32年～36年）

- 長期展示計画に基づく、資料調査を実施する。
- 館の目標に基づく、長期の調査研究事業を実施する。
- 地域の文化、歴史を研究し、中長期計画を達成するために必要な高度な専門性を持った学芸員を確保していく。
- 西村公朝資料の共同研究を行う。

3 展示

① 平成22年～26年（5年間）の成果と課題

常設展示については、第2展示室（窯業テーマ展示室）において市内の近世・近代瓦生産への展示替えがなされ、第1展示室（市内通史展示室）においては一部の展示替えやロビーにおいて特別展の成果の一部を採り入れた千里ニュータウンコーナーが新設され、小規模な展示更新はなされたが、定期的な更新はなされず、大規模リニューアル計画も進展していない。

企画展示では5年先までの中期計画を確実に提示した。夏季展示を中心に市民参画展示を継続的に実施し、旧西尾家・旧中西家・旧気比家との連携展示も実施した。手狭といわれる展示室の拡張は計画がなされたものの、実施には至っていない。

② 中期計画（平成27年～31年）

- ・ 観覧者ニーズ、参加体験型、ハンズオンをとりいれた常設展の大規模リニューアル計画の可能性を検討する。
- ・ 博物館が立地する紫金山公園の史跡や釈迦が池と博物館との関係性を示す一体化した展示を計画する。
- ・ 館蔵資料を活用した現展示を定期的に更新し、わかりやすい解説を行う。
- ・ 企画展の中期計画（5年）を立案し、計画的に開催する。
- ・ さまざまな連携に基づく展示を継続実施する。
- ・ 西村公朝資料の受入れ後に資料活用として定期的な展示を実施する。

③長期計画（平成32年～36年）

- 常設展示の大規模リニューアルを行う。
- 紫金山公園の史跡と一体化した常設展示を作り上げる。
- 長期計画に基づく企画展を開催する。
- さまざまな連携展示を実施する。
- 西村公朝資料を活用展示する。
- 特別展示室を拡張する。

4 地域文化の拠点と連携

①平成22年～26年（5年間）の成果と課題

特別展、企画展に関連させた講演会、講座、体験学習、展示解説（ギャラリートーク）などの催事、あるいは館員独自の講座、体験学習といった多くの教育普及事業を実施した。また、バックヤードツアーを年1回実施し、博物館への親しみ、役割、機能を理解してもらうよう努めた。

夏季展示や冬季の特別企画においては子ども向けあるいは親子向けの事業を充実させた。市民や市民

団体、他施設からの出張講座の依頼を積極的に数多く受入れ、実施した。

レファレンスサービスや特別利用については一定の利用をみたが、積極的な利用を促進するには至っていない。

地域の文化拠点としては、北大阪7市3町の50のミュージアムで構成される北大阪ミュージアム・ネットワークにおいて北大阪ミュージアムメッセの開催など連携強化が進展し、地元の歴史団体「吹田郷土史研究会」との連携事業は歴史街道推進協議会との連携事業へと進展した。市内の他の社会教育施設や市民団体とのあいだでは、旧西尾家・旧中西家住宅との連携事業が果たされたが、公民館、図書館との連携を今後さらに進める必要がある。

②中期計画（平成27年～31年）

- ・幅広い年齢層を対象とした催事の充実をはかる。
- ・博物館の利用法や日常業務の理解を深めるバックヤードツアー、ワークショップなどの活動を推進する。
- ・出前講座などの講師派遣を継続実施する。
- ・レファレンスサービスの一層の充実をはかる。
- ・旧西尾家住宅、旧中西家住宅とのさまざまな連携を進める。
- ・図書館、公民館との連携事業を実施する。
- ・北大阪ミュージアム・ネットワークの連携事業を進展させる。
- ・近隣館との連携事業を実施する。
- ・吹田郷土史研究会など地元歴史団体との連携事業を実施する。

③長期計画（平成32年～36年）

- 地域の情報拠点として資料や事業などさまざまな情報を他の施設と共有しながら発信する連携システムを計画する。
- 図書コーナーを改装し、情報（資料・蔵書・古写真・映像等のデータベース）閲覧コーナーとして整備する。

5 市民参画

① 平成22年～26年（5年間）の成果と課題

観覧者から展示に関するアンケートを実施、分析したが、活動に反映させるには至っていない。市民との定期的な意見交換会が実現できていない。

市民との連携事業として企画展や毎年の夏季展示には公募市民による展示実行委員会を組織し、展示の企画、運営に深く関わってもらった。また、そのマネジメントにより地元の団体、サークル、NPOの協力による普及事業を充実させた。今後は展示内容のさらなる充実が望まれる。

ミュージアムエドゥケーター、市民キュレーターは進展をみていないが、制度よりもこうした機能面の整備を進めることがより重要と考える。

ボランティア活動については喫茶サービスと学校教育連携展示において積極的な活動が展開され、内容も充実したものとなっている。学校教育連携展示に関わるボランティアは当初の展示案内補助から展示企画、案内、催事の実施と展示全般への企画運営に大きく関わる存在へと成長してきた。今後はボランティア活動の領域をふやすとともに、展示ごとに期間限定で組織される展示実行委員会との組織の整備やその研修プログラムの整備が検討課題となる。

②中期計画（平成27年～31年）

- ・利用のニーズを把握するアンケートを引き続き実施、分析し、博物館活動に供する。
- ・特別展や講座、トークなどの講師や「博物館だより」などへの執筆について市民参画をマネジメントする。
- ・市民団体との連携事業を実施する。
- ・ボランティアによる学校教育連携展示への企画運営を継続実施するとともに、ミュージアムエドゥケーターとしての機能を促進する。
- ・ボランティアの活動領域をふやし、その領域に応じた計画的な研修を実施する。

③長期計画（平成32年～36年）

- 定期的に市民との意見交換会を実施する。
- 博物館事業への市民参画をさまざまな機能や活動面で充実させる。

6 情報発信

① 平成22年～26年（5年間）の成果と課題

ホームページはよりわかりやすく豊富な内容をもつ新たなコンテンツへと年々更新を行い、蔵書データベース、学芸員やボランティアの情報、様式ダウンロードなど機能向上をはかるとともに、館の使命、事業点検・評価など博物館活動などの公開を行った。しかし博物館資料データベースの公開は実現していない。また、館報においても研究成果、事業成果、事業点検・評価など博物館活動に関する情報公開を実施した。

広報活動は年間展示計画を年度当初に公開し、マスメディア（メディア内覧会も一部で実施）・ローカルメディア双方への情報提供を働きかけるとともに、博物館協力者へのDMや学校の全生徒への案内チラシ配布など臨機応変な広報活動を展開した。

②中期計画（平成27年～31年）

- ・ホームページをより充実し、わかりやすく、見やすくするため新たなコンテンツの加除による整理を実施する。
- ・市報・ホームページ・マスメディア・ローカルメディアなど従来の広報に加え、新たな広報手段としてソーシャルメディアを検討する。
- ・全庁的に検討されているe-mailサービスの展開に合わせ、サービスを検討する。
- ・特別利用（資料閲覧・貸出・写真提供）を促進する。
- ・館報などのさまざまな印刷媒体、ホームページなどのメディアによって使命、事業報告、事業評価、研究成果を発信していく。

③長期計画（平成32年～36年）

- ソーシャルメディアを活用した広報を実施する。
- 広報活動のサポーターを導入する。
- 資料データベースを構築し、公開する。
- e-mail サービスを実施する。

7 学校教育との連携

①平成22年～26年（5年間）の成果と課題

学校の博物館利用は小学校3年生の社会科見学が中心で、ボランティアの支援をうけ、体験型展示を実施し、学校から高い評価を得ている。来館がむずかしい学校へは「あかりの体験」の出前授業を実施し、結果全校が利用している。その他の出前授業として4年生向けに「稲作の1年」を実施した。

中学校の博物館への来館はカリキュラムの関係から学校全体での実施はむずかしい。歴史授業のなかで地域史にふれ、夏休み期間に個人的に博物館を利用する機会となるよう、学校ごとの各地域の歴史教材を順次作成、配布している。職場体験学習の利用は増加しており、博物館ならではの業務体験を提供している。

高校との連携では高博連携を締結している吹田高校には地域を知るための吹田の歴史、博物館活動に関する授業を担当し、文化系クラブから博物館の催事への協力を得ている。また、一部の高校からインターンシップも受け入れている。

市内の小中学校教諭を対象に吹田の寺社、史跡などを現地見学し、吹田の歴史を学ぶ教員研修を実施している。

今後とも成長段階に合わせた生徒、学生に対する学習プログラムの開発提供とさまざまな博物館利用のあり方を検討していく必要がある。

②中期計画（平成27年～31年）

- ・学校教育との連携展示において教員からの要請や学校副読本の改定にあたり、展示内容を改定する。
- ・身近な自然と環境などをテーマとする夏季展示を活用し、夏休みの自主学習、宿題などへのサポートの促進をはかる。
- ・さまざまな学年、教科に活用できる教材の開発、出前授業メニューを検討、提示する。
- ・中学校との連携として社会科を対象に校区の地域史に関する教材の刊行を軸に進める。
- ・吹田高校との高博連携をさらに強化充実させる。
- ・高校生のインターンシップを継続して受け入れるとともに、内容を整備し、博物館業務の理解を進める。

③長期計画（平成32年～36年）

- 学校教員との博物館利用に関する研究会を確立する。
- さまざまな学年、教科において利用を促進するプログラムを開発する。
- 連携モデル校を検討していく。

8 社会貢献

① 平成22年～26年（5年間）の成果と課題

人材育成として大学博物館実習を継続的に受け入れ、展示実習展を一般公開するなど、他館にはない質の高い実習を実践してきた。また、JICAの博物館学コース研修員の受け入れも継続実施している。大学生の学芸員インターンシップも受け入れ、さまざまな人材育成での貢献を果たした。また、大学へ非常勤講師も派遣した。学会や研究会活動への支援として共催などによる会場提供を実施した。

②中期計画（平成27年～31年）

- ・博物館実習を継続して受け入れる。
- ・JICA研修を継続して受け入れる。
- ・学芸員インターンシップを受け入れる。
- ・学会、研究会等への支援を行う。

③長期計画（平成 32 年～36 年）

- 博物館実習のプログラムを検討する。
- J I C A 研修のプログラムを検討する。
- インターンシップのプログラムを検討する。
- 学会、研究会等と共同事業での貢献を果たす。

9 施設の整備・維持管理

① 平成 22 年～26 年（5 年間）の成果と課題

施設の維持管理については、展示機器に関する定期点検を確実に実施した。収蔵庫の空調機器の改修を行った。機械室の設備更新が進んでおらず、今後順次更新していく必要がある。

アクセスについては、紫金山公園の整備にともない、園内での博物館案内表示板を設置した。また、J R 岸辺駅の整備にともない、駅出口に博物館への案内表示を設置した。

今後は園内でのさらなる効果的なアクセス表示と、J R 岸辺駅前の整備計画の進展に際し、本格的なアクセス表示を設置する予定である。

名神高速道路の吹田サービスエリアのアクセス道路については法的な問題があり、進展していない。

紫金山公園ビジターセンターの建設に関しては平成 22 年に基本構想が出されたが、財政面から進展をしていない。

②中期計画（平成 27 年～31 年）

- ・ 展示機器の定期点検を継続して実施する。
- ・ 外国語の施設案内表示を作成する。
- ・ 機械室の設備を順次更新していく。
- ・ J R 岸辺駅前の本格的な整備にあわせてアクセス表示を設置する。
- ・ 吹田サービスエリアからのアクセスロードを引き続き検討する。
- ・ 紫金山公園ビジターセンターの建設を推進する。

③長期計画（平成 32 年～36 年）

- 展示機器の定期点検を継続して実施する。
- 機械室の設備を順次更新していく。
- 吹田サービスエリアからのアクセスロードを計画する。
- 紫金山公園ビジターセンターを建設する。